

# 金隈遺跡甕棺展示館のごあんない

About the Kanenokuma Site Burial Jar Museum



弥生時代の墓が密集した場所 360 mに、かめ棺墓 91 基、土こう墓 34 基、人骨 4 体の実物を発掘当時に近い状態で展示しています。



## アクセス

## Access



### ◆公共交通機関

#### 【西鉄バス】

「金隈遺跡前」下車徒歩約5分（「福岡空港前」より43番）

### ◆自家用車

#### 【福岡都市高速道路】

環状線外回り「月隈」出口から約7分  
環状線内回り「西月隈」出口から約5分  
太宰府線「金の隈」出口から約8分 ※九州自動車道「太宰府IC」方面より  
【一般道】  
福岡外環状道路「立花寺北交差点」から約4分

## 金隈遺跡甕棺展示館

Kanenokuma Site Burial Jar Museum

福岡市博多区金の隈1丁目39-52 Tel 092-503-5484

開館時間/9:00 ~ 17:00(入館は16:30まで)

入館料/無料

休館日/月曜日(祝休日にあたる場合は翌平日), 12月29日~1月3日



CULTURAL PROPERTIES  
IN FUKUOKA  
福岡市の文化財

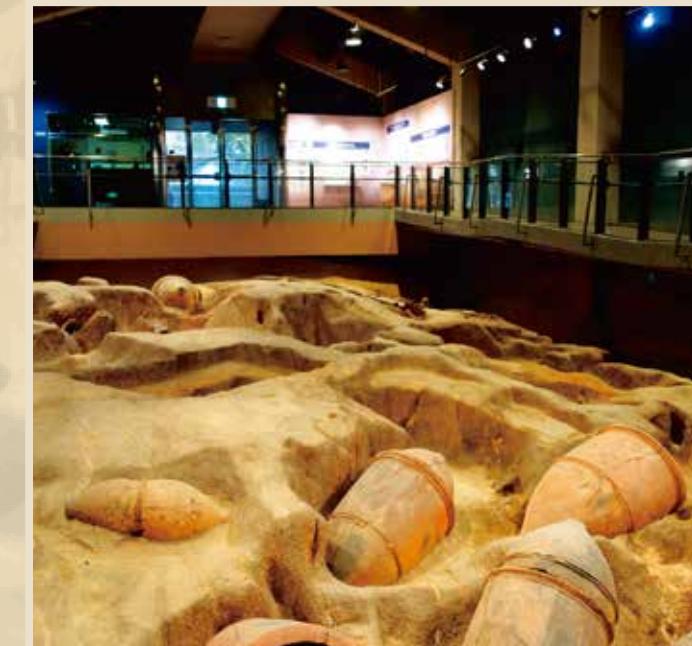


くに し せき かねの くま い せき  
**国史跡 金隈遺跡**

Kanenokuma Site  
National Historic Site

国家史迹—金隈遺跡

국가 사적 가네노쿠마 유적



YOKA NAVI

アジアのリーダー都市へ  
**FUKUOKA NEXT**



◆発掘中の金隈遺跡

## 発掘調査の成果

金隈遺跡では、約2,400年前から1,800年前、弥生時代のおよそ600年にわたって、かめ棺墓348基をはじめ、土こう墓119基、石棺墓2基の合計469基もの墓が発見されています。

これらの墓からは、136体におよぶ人骨のほか、貝輪や石製の小玉、かめ棺墓に供えられた小形の壺が発見されています。

## Results of the Excavations

Beginning approximately 2,400 years ago, a total of 469 graves were constructed within the Kanenokuma site over a period of around 600 years. These included 348 jar burials (kamekanbo), 119 hole-shaped graves (dokobo), and 2 stone coffin graves (sekkanbo).

In addition to the bones of 136 individual humans, shell bracelets, stone beads, and small vases given as offerings for the jar burials were also discovered from within these graves.

## 发掘調査の成果

在至今约2,400年前到1,800年前的约600年间，金隈遗址内建造了348座瓮棺墓、119座土坑墓、2座石棺墓，共计469座墓葬。

从这些墓葬中共发现了多达136具的人骨，除此之外还有贝壳手镯、石制珠子以及陪葬在瓮棺墓中的小壶。

## 발굴 조사의 성과

가네노쿠마 유적은 약 2,400년 전부터 1,800년 전까지 약 600년에 걸쳐 응관묘(항아리 관) 348기를 비롯하여 토광묘 119기, 석관묘 2기 등, 총 469기의 무덤이 만들어졌습니다.

이 무덤에서는 136구에 이르는 인골 외에도, 조개 팔찌와 돌로 만든 작은 구슬, 응관묘의 께물거리로서 소형 항아리가 발견되었습니다.



◆金隈遺跡の土こう墓



◆男性の右腕に着けられたゴホウラ貝輪

## 金隈遺跡の墓

### Graves of the Kanenokuma Site

金隈遺跡では、土こう墓が最も古い墓と考えられます。そして、弥生時代前期の後半ころ（約2,300年前）からのちは、かめ棺墓が主体になります。かめ棺墓は中期のおわり（約2,000年前）にかけて減り、それ以降はわずかに石棺墓がつくられるにすぎません。金隈遺跡は弥生時代のおわりころ（約1,800年前）まで、墓地として使われていたと考えられます。



◆金隈遺跡とその周辺の遺跡

## 金隈遺跡の価値とは

### Importance of the Kanenokuma Site

金隈遺跡では、墓地のほぼ全体を発掘することができたため、北部九州で弥生時代に作られた典型的な墓地のすがたを解明することができました。

ここで発見されたかめ棺は、時間的な形状の変化を途切ることなく確かめることができるため、遺跡の年代を測る「ものさし」としても利用することができます。また、かめ棺墓の中からは状態のよい多くの人骨や貝輪が発見され、弥生時代に生きた人々のすがたや、ほかの地域との交流を研究する上で貴重な資料となっています。

このように、弥生人の起源や社会を研究するうえで重要な遺跡であることから、金隈遺跡は1972（昭和47）年に国の史跡に指定されています。